

水のある風景

変化と流転、そして地球の未来可能性

Waterscape-Flux / Nature / Future



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所
人間文化研究機構

水のある風景

変化と流転、そして地球の未来可能性

Waterscape-Flux / Nature / Future

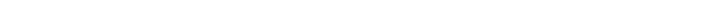
はじめに

地表の7割が水で覆われた水の惑星、地球。生きとし生けるものすべてが水の恩恵にあずかって生を授かり、豊かな自然環境の中で水を利用して生の営みを続けています。

しかし、産業革命などを契機に新しい地質年代である「人新世(あるいは人類世)」に入ってから、人類の活動は地球の隅々に影響を及ぼし、水辺の風景も変わり、人々の生活も変遷してきました。

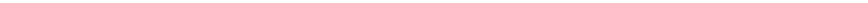
総合地球環境学研究所(地球研)は、人と自然の相互作用の根本を理解し、人新世で引き起こされているさまざまな地球環境問題の解決を目指す研究を進めています。その中で、国内外の研究調査地で水辺の風景と人々の生活も見つめてきました。

私たちは今、未来の人類世代も豊かに生活しつづけられるような地球の「未来可能性」を考える必要に迫られています。考えるためのヒントのひとつになるよう、本展覧会では、さまざまな形に変化し、流転しながら地球を巡る水のある風景を、地球研の研究調査地で撮影された写真を中心に紹介します。



水のある風景

06	1	waterscape	水のある風景
42	2	flow and control	水の流れと伝統的な治水
62	3	spring and flow	湧水や周り巡る水
78	4	silvered water (mercury)	水鏡、水銀汚染
100	作品リスト		
102	会場風景		



| 1 | waterscape

— 水のある風景 —

乾燥地帯から水の豊富な地域、
あるいはあたり一面の澄んだ水から汚染された都市の水まで、
水は地球上のあらゆる場所で私たち生命を育んできました。
多様な地域や年代を切り取ったそれぞれの写真から、
生命の維持に欠かせない水の存在を強く感じることができます。



佐々木タ子

《深井戸の長いつるべを引く》

2011

ニジェール共和国

ニジェールの半乾燥地の村落では、乾季になると井戸の水位が下がるのでつるべを長くして水を汲み上げる。



田中樹

《自噴井戸での水汲み》

2008

ニジェール共和国

ニジェール西部の農村の自噴井戸での水汲み風景。
水汲みはお母さんや子供たちの仕事。



阿部健一

《塩泉にバナナの茎を浸す》

1991

インドネシア共和国

特別許可をもらって訪問したパプアニューギニア島の高地は別世界だった。男性はベニスケース、女性は腰蓑を身に着けているだけ。バナナの茎は持ち帰って囲炉裏で焼いて塩を得る。30年前のことだが、その煙たさを素朴な人柄と共に今も思い出す。



阿部健一

《田んぼで菱を収穫する》

1996

ベトナム社会主義共和国

人口稠密な紅河デルタでは農地は貴重だ。湛水し稲作が困難な雨期の水田は、菱畑として利用する。一年中農地に人があふれているのもありふれた風景だった。20年ぶりに再訪したが、農地に人影がない。農民は近くの工業団地で働き、農業の機械化が進んでいた。



嘉田良平

《LakeHEAD1》

2010
フィリピン共和国 Pasig運河

貧困と繁栄は表裏一体。
大都会マニラのすぐ裏側、ラグナ湖畔の集落にて。



《LakeHEAD2》

2010
フィリピン共和国 ラグナ湖

漁は夜明け前に始まった。



《LakeHEAD3》

2010
フィリピン共和国 ラグナ湖

養殖、栽培、運輸など、湖水面はにぎやかだ。
生きるために、夕暮れ時の漁労は欠かせない営みだ。



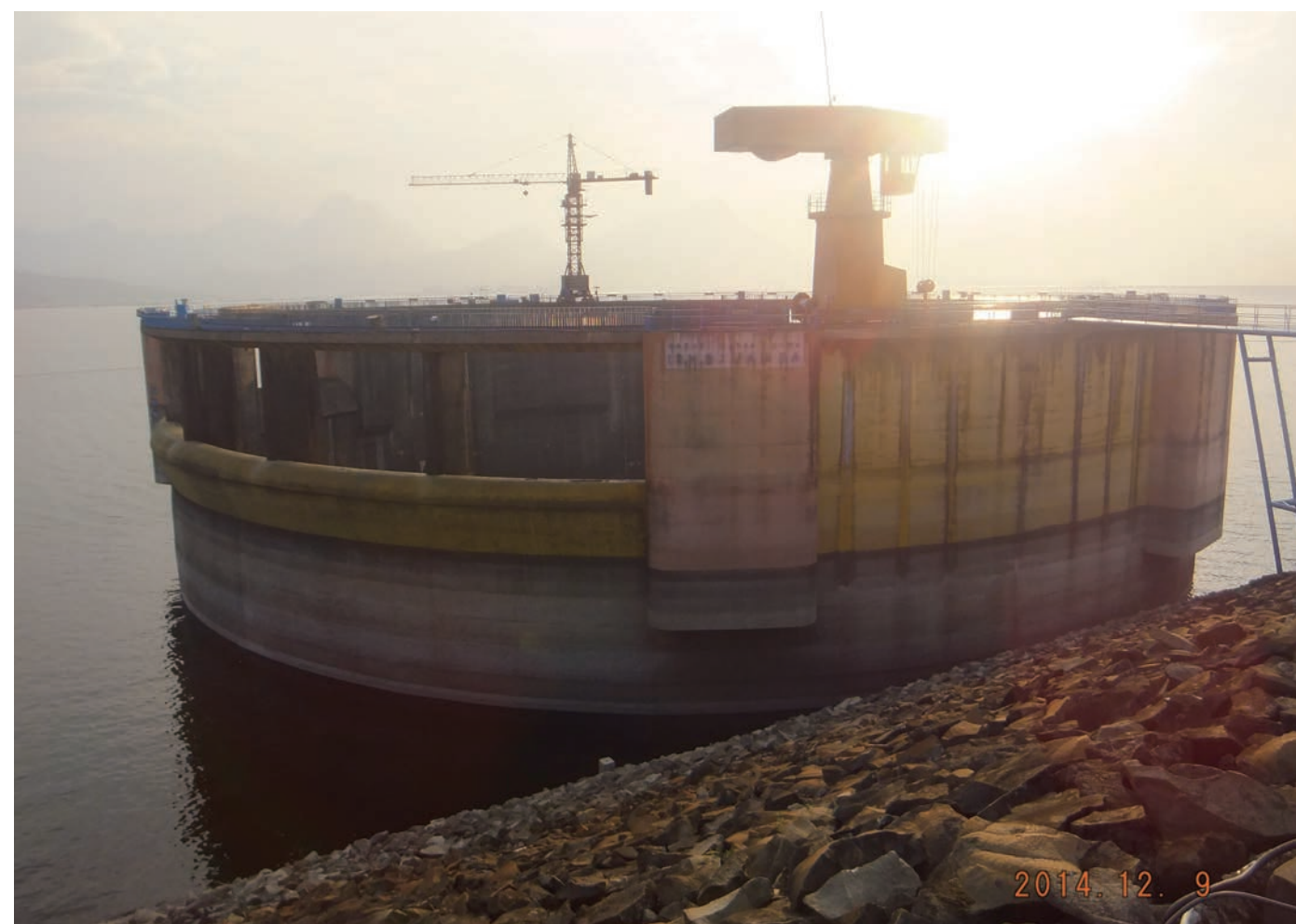
増原直樹

《水とエネルギー（巨大なダム）》

2015

インドネシア共和国 ジャティルフダム

首都ジャカルタの水と電気を賄う巨大なダムと水力発電。



阿部健一

《土を掘って水を得る》

2009

ケニア共和国

ケニアの北部トゥルカナ地方は乾燥した大地が広がっている。人気のない風景のなかの一本道を走っていると人影を見つけた。土を掘って水を得ようとしている人だ。湿潤な東南アジアでは水が多すぎるのが課題だった。乾燥地の多いアフリカでは、逆に少ない水を分かち合うことが課題だと知った。



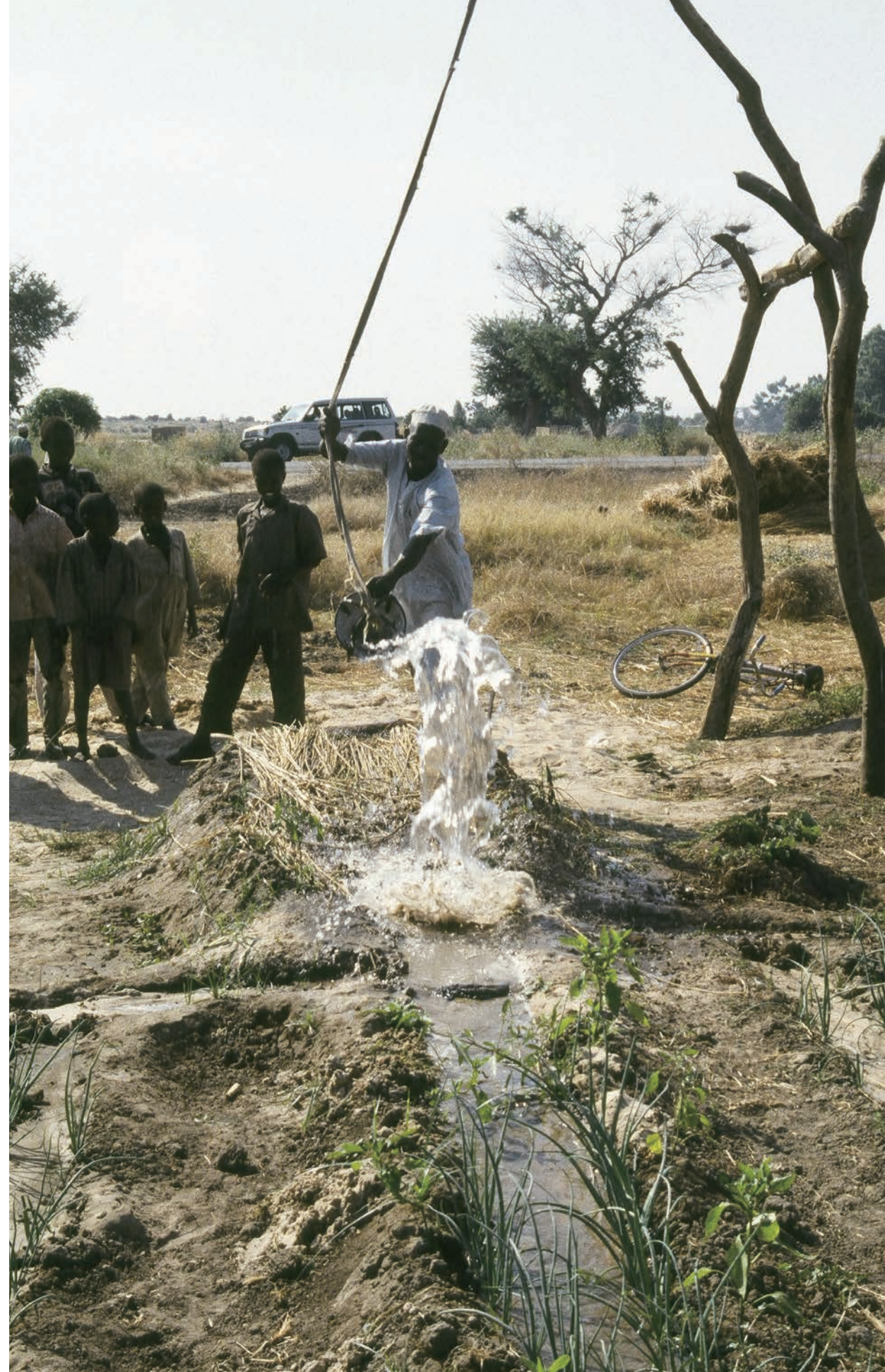
阿部健一

《つるべで井戸の水を灌水する》

2009

ケニア共和国

水は人の生活に欠かせない。世界のさまざまな地域で、人々は安定して「きれいな水」をえるために知恵を絞ってきた。それを地球研とユネスコは「水の文化」とよび、3年に一度開催される世界水フォーラムでセッションを共同企画・運営している。第9回は2022年3月にセネガルのダカールで開催された。



石川智士

《貝ひろい》

2012

タイ王国 ラヨーン

潮が引いたときに、干潟にて貝ひろいをしている家族。



石川智士

《マニラの水揚げ》

2012

フィリピン共和国 マニラ

マニラの漁港・ナポータスでの水揚げ風景。近くの島々からも漁獲物が運ばれてくる。



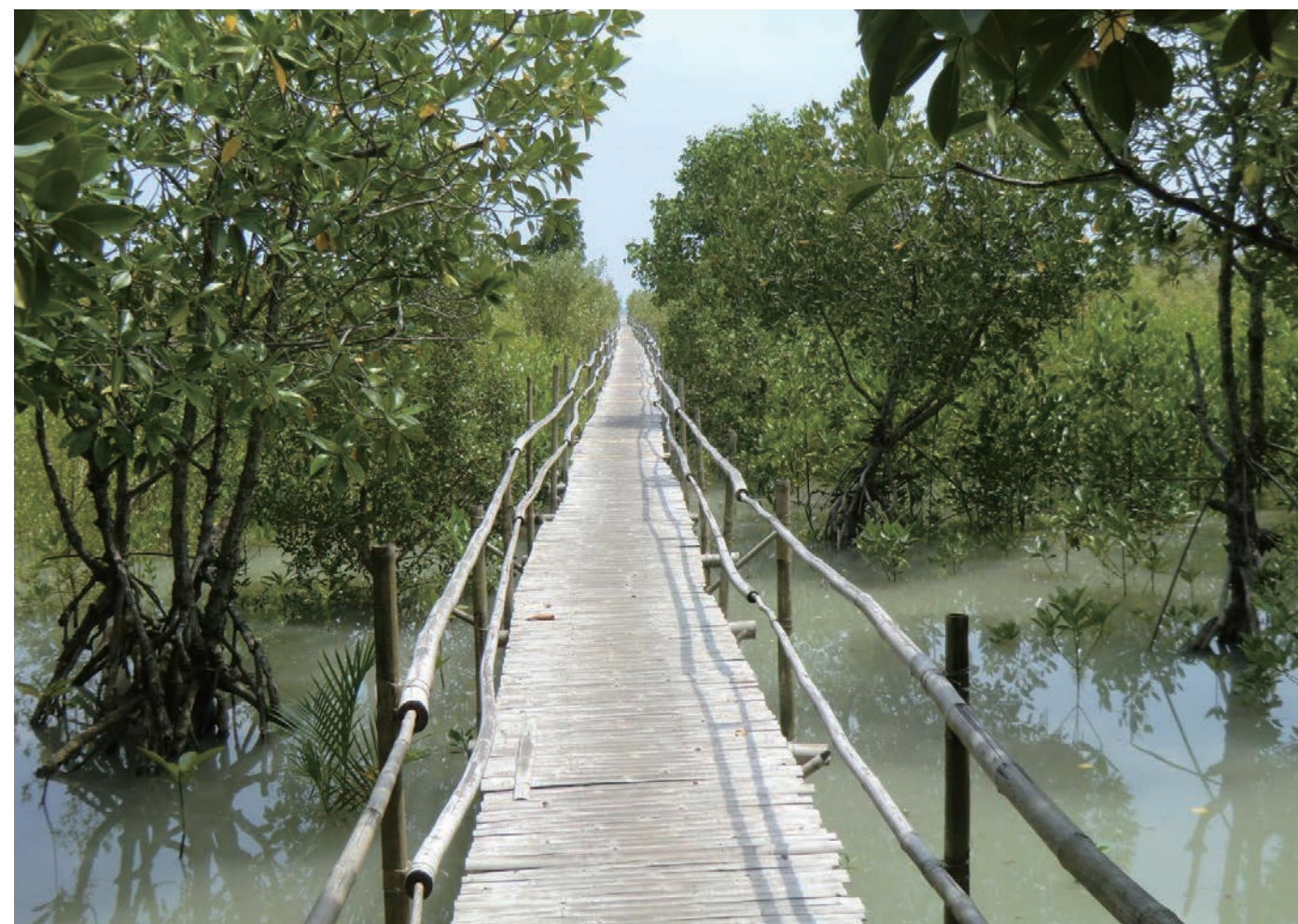
石川智士

《マングローブ林内の木道》

2012

フィリピン共和国 パナイ島

フィリピンのパナイ島になるマングローブ植林地での風景。
NGOと大学が共同で植林活動を行っている保護地区の木道。



寺本瞬

《Floating》

2017

フィリピン共和国 ラグナ湖

ラグナ湖の風景。河川等を通じて、他の地域、流域から、人の出したゴミが湖岸に集まる。プラごみも多い。





吉田丈人

《冬の朝》

2021

福井県 三方五湖

湖がもたらす恵みの一つに湖魚があり、四季折々に地域の食文化を彩る。北陸地方の厳しい冬でも、時には穏やかな天候の日があり、霜が降りる静かな朝をねらって、漁師が静かに網をたぐる。そうして獲れた湖魚は、地域の食卓を彩るのだ。



阿部健一

《水路を掘り、泥炭地を拓く》

1986

インドネシア共和国 スマトラ島

無人の泥炭湿地林に貧しい土地なし農民が次々やってくる。森林を斧だけで伐採し、鋤をふるって水路を掘り、商品となるココヤシを植えてゆくのだ。水路は過剰な水を排水するためだ。やがて企業が大型機器を持ち込みアブラヤシを植えるようになる。無限と思われた泥炭湿地林はあっという間に無くなった。





寺本瞬

《フィッシュペン》

2017

フィリピン共和国 ラグナ湖

ラグナ湖の風景。ペン養殖(竹と漁網を使った浅瀬での養殖)の前で、魚を追いつみ、漁をする人。効率的に魚を養殖するために、フィッシュペンは密集するが、魚の餌や糞がラグナ湖を汚染する。



| 2 | flow and control

水の流れと伝統的な治水

生命維持に欠かせない水が見せるもう一つの表情「水害」。
平穏な生活をときおり脅かしてきた「水」を先人たちは、
長い年月にわたり、利用しながら制御する知恵を磨いてきました。
風景の中に刻まれた水による災いの「記憶」は
現代の私たちに水と共に生きる知恵と歴史を伝えています。

吉田丈人

《川を松でとめる》

2020

富山県 砺波市

庄川の流れが扇状地の上部で固定されることで、砺波平野を
水害から守るとともに、豊かな水が水田を潤す。松川除は、
庄川の流れをとどめるために、松を植えて堤防を強くし、洪水
に備えた伝統的な治水である。



吉田丈人

《水害を刻む》

2020

佐賀県 伊万里市

川は、地域に豊かな恵みをもたらす一方、水害の災いをもたらすことがある。地域の神社には、過去に起こった水害(浸水深)を記録した石碑があり、地域に記憶が刻まれる。災いをいかに避けながら恵みを享けるか、石碑は地域の知恵の一つである。



吉田丈人

《公平に分ける》

2020

滋賀県 米原市

豊かな川の恵みをどう公平に分けるか、地域にとって大切な問題である。川から引かれた一つの用水を、複数の用水路に分けて流すのが、分水工の役割。円形の分水工は、どんな割合で分水されるかが、誰にでも一目でわかるよう工夫されている。





饗庭正寛

《海津浜の石垣》

2005

滋賀県 高島市

滋賀県高島市の海津集落では江戸時代中期に築かれた石積み
の堤防が今も家々を琵琶湖の波浪から守っている。私達の
プロジェクトではこうした伝統を、現代における自然との共生
や防災意識の涵養に活かすための研究にも取り組んでいる。



吉田丈人

《湯嶋神社(滋賀県大津市)》

2020

滋賀県 大津市

湯嶋神社は、古くから祀られてきた水分神(みくまりのかみ)とされ、大雨が降るときにも日照りがつづくときにも、暮らしを支えるだじな水が絶えないよう祈られる。境内の池には豊かな水が勢よく流れ込み、水に混ざる砂を沈めるとともに、用水を分けて地域内に配る役割を果たしている。



寺本瞬

《下から上に》

2018

福井県 熊川宿

若狭と京都をつなぐ鯖街道の宿場町「熊川宿」。
水を低いところから高いところへと運ぶ水車。ホタルのビオ
トープへと水を送り込んでいる。熊川宿の古い町並みには、
連なる建物の軒先を前川という水路が流れ、今でも芋洗い用
の小さな水車が回っている。





MYO HAN HTUN

《Clay pot production for the water-stress crises in central Myanmar (Burma)》

2010

ミャンマー連邦共和国Sagaing地域

Big clay pots are still popular in Myanmar, particularly in the central Myanmar area, and people utilized them as water storage to avoid water-stress crises, especially during the hot summer season. Essentially, it is commonly utilized as water storage (an extra usage of water) for drinking or cooking. It is also used for bathing storage of water since holding the water in clay pots makes the temperature of the water substantially colder (cooler), which is ideal for a hot summer shower.





3 | spring and flow

湧水や周り巡る水

水は蒸発して雲となり、雨や雪として降り注いだ後、
長い年月をかけて地下を循環し、
湧き水として再び私たちの元に姿を現します。
巡り巡ってさまざまな恵みをもたらす水を、
人々は「神事」や「神話」の形で大事に受け継いできました。
地層を通り清められた水はどこまでも澄み切って見えます。

藪崎志穂

《菖蒲池と冠雪の富士山》

2017

山梨県 忍野村

山梨県忍野村の地下水や湧水の水質や地下水流動に関する調査を行ったときに撮影したもの。世界文化遺産 富士山の構成資産に登録されている「忍野八海」の一つで、富士山で涵養された水が湧き出した湧水池である。忍野村の標高は高いので冬の寒さは厳しいが、晴れた日の蒼い空を背景に、冠雪で白く染まった富士山と湧水の池の景色をみると、その美しさにしばらく見惚れる。



吉田丈人

《水の山》

2020

熊本県 阿蘇市

阿蘇山に降った雨は、草原にしみ込んで地下水となり、カルデラ内の水田を潤す恵みとなる。カルデラ内にはいくつもの湧水が見られ、勢いよく地下水が噴き出す。その様子は、まるで山のようなのである。



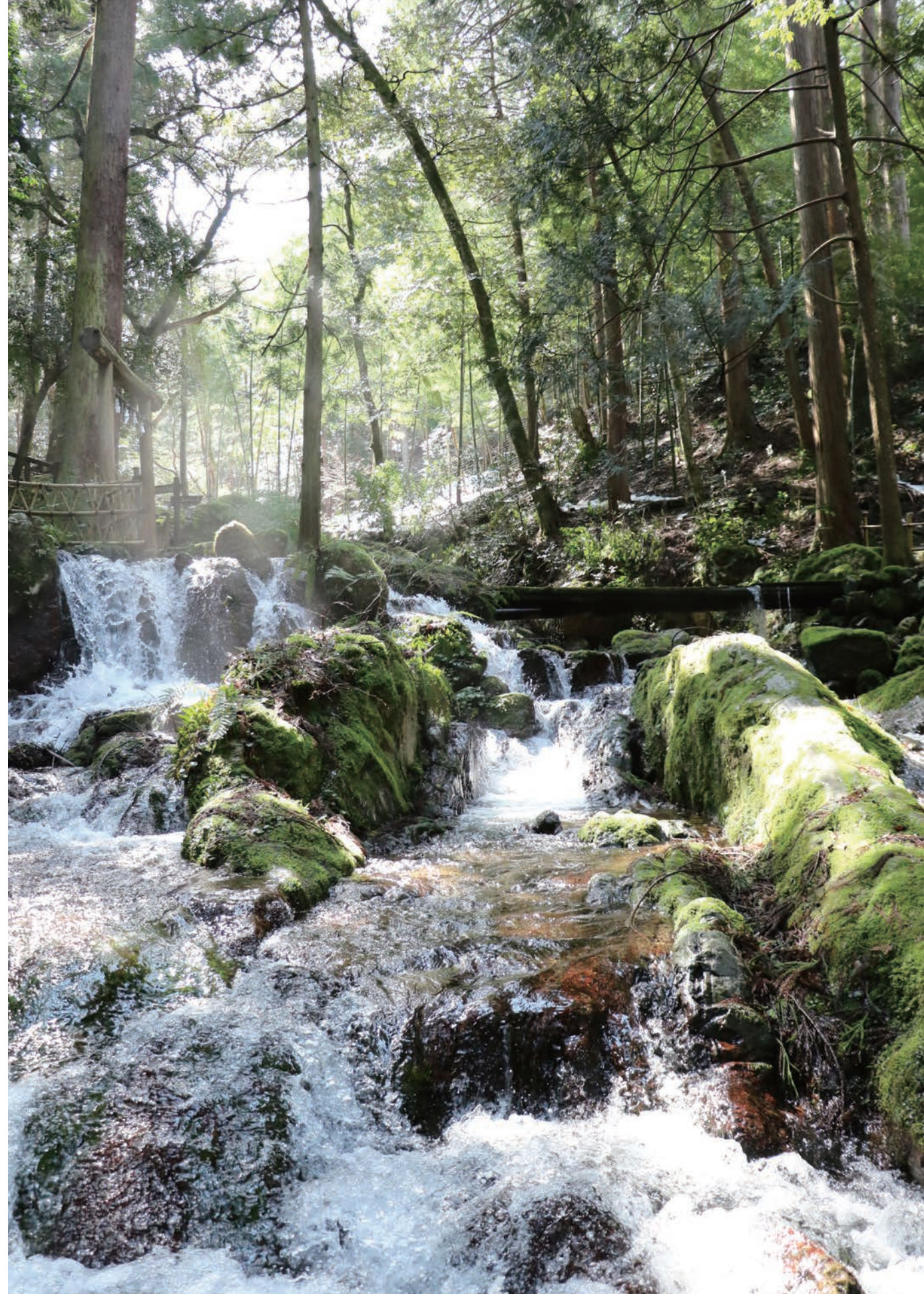
寺本瞬

《名水百選「瓜割ノ滝」》

2017

福井県 若狭町

写真は、昭和60年(1985)選定の名水百選の一つとして指定されている「瓜割の滝」です。宝暦10年(1760)著述の『拾椎雑話』には、瓜割の滝について「夏には甚だ冷たくて氷のごとく、瓜をひやしておけば自然に割れてしまうので、俗に瓜割の水と呼ぶ」とあり、その名のとりの瓜割です。2017年3月2日、地球研の仲間と「お水送り」に参加するべく福井県を訪れたさいに立ち寄りました。



寺本瞬

《津島名水》

2016

福井県 小浜市

雲城水のすぐ近くにある、自噴井。地元の人が日常的に水を汲んでいる。雲城水では、積雪の際、同じ地下水を使う融雪装置を作動すると、ポンプ組み上げになっていた。トレードオフの例。



寺本瞬

《お水送り 関伽井戸》

2017

福井県 小浜市

福井県小浜市の「お水送り」。この井戸から御香水が汲まれ、
奈良の東大寺二月堂へ、遠敷川を通して送られる。



寺本瞬

《お水送り 弓打ち神事》

2017

福井県 小浜市

福井県小浜市の「お水送り」。四方祓いの射儀式。



寺本瞬

《お水送り 大松明》

2017

福井県 小浜市

福井県小浜市の「お水送り」。



4 | silvered water (mercury)

水鏡、水銀汚染

水辺の環境は、地域の文化を育み、人々の生活を支えてきました。
しかし、人類の発展の影で、土地の改変や水質汚染によりその環境は急激に変化しています。
人々の生き方も今、変革を求められようとしています。
鏡のような水面は、これからどのような人と自然の未来を映していくのでしょうか。

MYO HAN HTUN

《A hut on the outskirts of "Shwegyin",
the gold mining town in Bago Region,
Myanmar》

2018

ミャンマー共和国Pegu地域

A hut on the outskirts of the town of Shwegyin. "Shwegyin" means "Searching Gold" in Bago Region, Myanmar. The name of a town widely known for its gold. Despite the fact that tons of gold were produced legitimately or illegally by local individuals and businesses, the social progress index remained the same as in prior decades.



君嶋里美

《インレー湖の漁師1》

《インレー湖の漁師2》

2009

ミャンマー連邦共和国 タウンジー

ミャンマーのタウンジーにあるインレー湖では、現在も独特な漁法が受け継がれている。足を使ってボートを進め、両手を使って漁を行う。しかし人口増加、養殖・観光産業の急速な発展は、インレー湖の自然環境に深刻な影響を及ぼしている。



君嶋里美

《Jumping higher and higher》

2019

インドネシア共和国 ゴロンタロ

インドネシアのスラウェシ島北部にあるリンボト湖につながる
河川は子供たちの遊び場だ。誰が一番高く飛べるか競争だ。





君嶋里美

《魂の湖リンボト湖》

2019

インドネシア共和国 ゴロンタロ

インドネシアのスラウェシ島北部にあるリンボト湖は、ゴロンタロ人にとって魂の湖である。この湖は、数世紀以上にわたって地域の伝統的な行事や儀式を育んできた。また周辺の豊かな生態系は、ゴロンタロ人にあまたの恵みや生業を与えている。



MYO HAN HTUN

《Breakfast time for sand collectors in
Bago Division's river》

2009

ミャンマー共和国Bago地域

Sand collectors were eating breakfast in their wooden boats
in the Bago Region in Myanmar's river.



MYO HAN HTUN

《 Fishermen and sand collectors are waiting for their companions to start their work 》

2009

ミャンマー共和国Bago地域

A group of sand collectors and fishermen were waiting for their co-workers to start their work at a riverbank near their village in Bago Region, Myanmar.



君嶋里美

《縮小を続けるリンボト湖》

2019

インドネシア共和国 ゴロンタロ

インドネシアのスラウェシ島北部にあるリンボト湖。戦後の人口増加、地盤の浸食と堆積、農業・養殖産業の拡大、そして人びとの価値観の変化という大波を受け、湖の水質は悪化し、縮小をつづけている。



君嶋里美

《リンボト湖の養殖業》

2019

インドネシア共和国 ゴロンタロ

インドネシアのスラウェシ島北部にあるリンボト湖の養殖業。
湖の縮小や周辺地域の急速な発展により豊かな生態系が変化し、地元の漁業に深刻な影響を及ぼしている。





作品リスト

1 waterscape 水のある風景			
佐々木タ子	《深井戸の長いつるべを引く》	2011	ニジェール共和国
田中樹	《自噴井戸での水汲み》	2008	ニジェール共和国
阿部健一	《塩泉にバナナの茎を浸す》	1991	インドネシア共和国
阿部健一	《田んぼで菱を収穫する》	1996	ベトナム社会主義共和国
嘉田良平	《LakeHEAD1》	2010	フィリピン共和国 Pasig運河
嘉田良平	《LakeHEAD2》	2010	フィリピン共和国 ラグナ湖
嘉田良平	《LakeHEAD3》	2010	フィリピン共和国 ラグナ湖
増原直樹	《水とエネルギー（巨大なダム）》	2015	インドネシア共和国 ジャティルフダム
阿部健一	《土を掘って水を得る》	2009	ケニア共和国
阿部健一	《つるべで井戸の水を灌水する》	2009	ケニア共和国
石川智士	《貝ひろい》	2012	タイ王国 ラヨーン
石川智士	《マニラの水揚げ》	2012	フィリピン共和国 マニラ
石川智士	《マングローブ林内の木道》	2012	フィリピン共和国 パナイ島
寺本瞬	《Floating》	2017	フィリピン共和国 ラグナ湖
吉田丈人	《冬の朝》	2021	福井県 三方五湖
阿部健一	《水路を掘り、泥炭地を拓く》	1986	インドネシア共和国 スマトラ島
寺本瞬	《フィッシュベン》	2017	フィリピン共和国 ラグナ湖

2 flow and control 水の流れと伝統的な治水			
吉田丈人	《川を松でとめる》	2020	富山県 砺波市
吉田丈人	《水害を刻む》	2020	佐賀県 伊万里市
吉田丈人	《公平に分ける》	2020	滋賀県 米原市

饗庭正寛	《海津浜の石垣》	2005	滋賀県 高島市
吉田丈人	《湯嶋神社（滋賀県大津市）》	2020	滋賀県 大津市
寺本瞬	《下から上に》	2018	福井県 熊川宿
MYO HAN HTUN	《Clay pot production for the water-stress crises in central Myanmar (Burma)》	2010	ミャンマー連邦共和国 Sagaing地域

3 spring and flow 湧水や周り巡る水			
藪崎志穂	《菖蒲池と冠雪の富士山》	2017	山梨県 忍野村
吉田丈人	《水の山》	2020	熊本県 阿蘇市
寺本瞬	《名水百選「瓜割ノ滝」》	2017	福井県 若狭町
寺本瞬	《津島名水》	2016	福井県 小浜市
寺本瞬	《お水送り 闘伽井戸》	2017	福井県 小浜市
寺本瞬	《お水送り 弓打ち神事》	2017	福井県 小浜市
寺本瞬	《お水送り 大松明》	2017	福井県 小浜市

4 silverd water (Mercury) 水鏡、水銀汚染			
MYO HAN HTUN	《A hut on the outskirts of "Shwegyin", the gold mining town in Bago Region, Myanmar》	2018	ミャンマー共和国 Pegu地域
君嶋里美	《インレー湖の漁師 1》	2009	ミャンマー連邦共和国 タウンジー
君嶋里美	《インレー湖の漁師 2》	2009	ミャンマー連邦共和国 タウンジー
君嶋里美	《Jumping higher and higher》	2019	インドネシア共和国 ゴロンタロ
君嶋里美	《魂の湖リンボト湖》	2019	インドネシア共和国 ゴロンタロ
MYO HAN HTUN	《Breakfast time for sand collectors in Bago Division's river》	2009	ミャンマー連邦共和国 Bago地域
MYO HAN HTUN	《Fishermen and sand collectors are waiting for their companions to start their work》	2009	ミャンマー連邦共和国 Bago地域
君嶋里美	《縮小を続けるリンボト湖》	2019	インドネシア共和国 ゴロンタロ
君嶋里美	《リンボト湖の養殖業》	2019	インドネシア共和国 ゴロンタロ



会場風景

地球研写真展

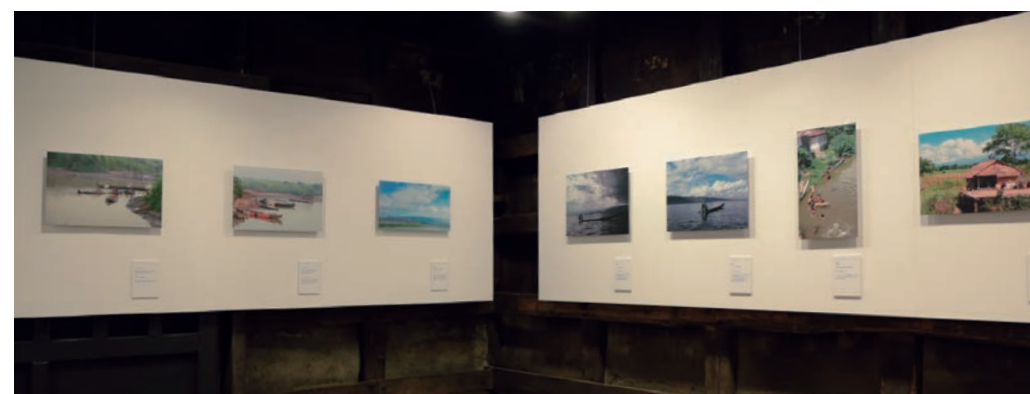
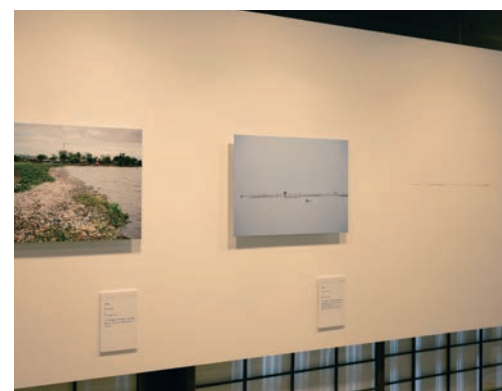
水のある風景

ー変化と流転、そして地球の未来可能性

会期 | 2022年3月10日(木)～15日(火)

場所 | しまだいがギャラリー

主催 | 総合地球環境学研究所



水のある風景

変化と流転、そして地球の未来可能性

Waterscape—Flux / Nature / Future

水のある風景—変化と流転、そして地球の未来可能性

発行日 2023年3月31日

企画 岡田小枝子、中大路悠(総合地球環境学研究所広報室)
編集 植田憲司、永戸栄大
デザイン 永戸栄大(Eidai Nagato Design)
発行 総合地球環境学研究所
京都市北区上賀茂本山457番地4
Tel: 075-707-2128
Fax: 075-707-2515
<https://www.chikyu.ac.jp/>

地球研写真展

水のある風景—変化と流転、そして地球の未来可能性

会期 2022年3月10日(木)–15日(火)
場所 しまだいギャラリー
主催 総合地球環境学研究所
企画 岡田小枝子、中大路悠(総合地球環境学研究所広報室)
デザイン 永戸栄大(Eidai Nagato Design)
協力 植田憲司、三原聡一郎

